

4. 主権国家体制の形成

<主権国家体制>

明確な国境で囲まれた領土、対外的に君主のみが国を代表する国内秩序＝近代国家の原型

- ※ _____ (絶対主義、absolutism) ……スペイン、イギリス、フランス
国王が**官僚と常備軍**を整備し強力な中央集権政治、_____とされていたが、
貴族らが依然として特権保持。王権による全国的中央集権化には至らず。
- ※ _____ 政策
国王が有産市民（ブルジョワジー）に経済上の独占権を与え、協力関係きずく。
保護関税を設けて国内産業を育成。 ← **資本主義的生産様式**の発展に対応
- _____
商人（製品の流通過程から利潤を得る商業資本家）が、生産者（主に農民の副業）に
原料、道具 etc. を前貸しし、製品を独占的に買い上げ、それを販売する。
- _____ (manufacture、工場制手工業)
産業資本家（製品の生産過程から利潤を得る）が、道具を備えた作業場を経営。
賃金労働者（資本家に労働力を売って収入を得る）を雇って生産し、販売する。

< _____ (1494～1559) と国際関係 >

フランス王シャルル8世(1483-98)がイタリア侵入。
ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世、及びスペインが対抗。

1519 ハプスブルク家スペイン王カルロス1世が皇帝に当選＝ _____ (-56)

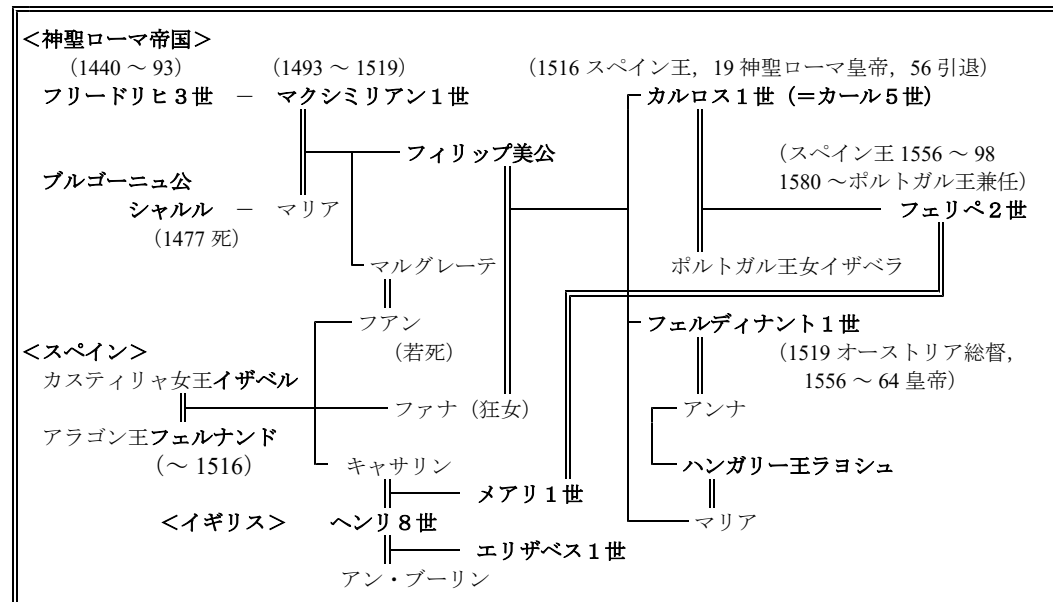
↔ フランス王 _____ (1515-47) と対立

1559 カトー・カンブレジ条約

ハプスブルク家がミラノ、ナポリなどを確保。
フランスはイタリア放棄、そのかわりロレーヌ獲得

※以後、18世紀半までの国際関係の対立軸は
フランス王（ヴァロワ家、ブルボン家） VS ハプスブルク家（神聖ローマ皇帝）

※ハプスブルク家の系図…「戦は他人にまかせておけ、ハプスブルクよ、汝は結婚せよ」



<スペイン>

- ▶ ハプスブルク家 _____ (1516～56、1519～神聖ローマ皇帝カール5世)
※広大な領土 { スペイン・ネーデルラント・ナポリ・中南米…①
オーストリア・ハンガリー・ベーメン ……②
- 1556 カルロス1世引退…領土②と神聖ローマ皇帝位は弟フェルディナント1世に

- ▶ _____ (1556～98) ……父カルロスから領土①を相続
妃のイングランド女王メアリ1世とともにカトリック教会の守護者

• 治世前半…「太陽の没することなき大帝国」建設

1571 _____ ……オスマン=トルコ海軍を破る

同年 フィリピン総督府設置

1580 ポルトガル王位を兼任 (~1640)。一時、そのアジア植民地を併合

• 治世後半…イングランド女王 _____ との対立

↳ 中南米からのスペイン船に対し海賊行為、オランダの独立援助

1588 スペインの _____、イギリス海軍に敗北

◆経済… _____ (中南米の銀を直接獲得)
しかし富は貴族・聖職者に集中。(保守的カトリック国のため)
国内産業を育成せず、資本家の成長見られず。

◆文化…エスコリアル宮殿、セルバンテス、画家エル＝グレコ

<オランダ>

スペイン (=ハプスブルク家) 領ネーデルラント
毛織物業・中継貿易で繁栄＝“スペインの台所”
フランドル地方の中心都市アントウェルペンは国際経済の中心
カルヴァン派 (_____) 多い

1568～1609 オランダ独立戦争

フェリペ2世のカトリック・絶対主義支配に対する反乱
宗教戦争でもあり、また市民革命の先駆でもある

南部10州 (フランドル地方=現ベルギー) はカトリック多く、懐柔されて脱落
(→ 1714 オーストリア領→ 1792 フランス革命軍の占領→ 1815 オランダ領→ 1830 独立)

1579 北部7州、 _____ 結成 (指導者 _____)

1581 _____ 独立宣言
• 都市の全権を大商人が掌握、その代表が貴族とともに議会構成
• 連邦議会の指導者オラニエ家が総督の地位を世襲
(→ フランス革命・ナポレオン戦争による混乱後、1813より王政)

1609 スペインと休戦条約 (事実上の独立達成)

1648 三十年戦争後の _____ 条約で諸国から承認される

◆経済…首都 _____ は、アントウェルペんに代わり17世紀前半の国際金融の中心
1602 オランダ東インド会社成立
東南アジアの香辛料貿易をポルトガルから奪う

◆文化…国際法の父 _____、バロック画家 _____ など

<イギリス>

- ▶ テューダー朝最後の女王 _____ (1558 ~ 1603)
1599 **統一法**……国教会確立=絶対王政の確立

- ・強力な官僚・常備軍は形成されず、地方行政に郷紳 (_____) の協力必要
- ・議会も存続……市民階級の利害と一致した政策をとったため問題なし

※第1次 _____ (_____、enclosure、15c 半~16c)
耕地・原野を柵で囲って牧羊場とする=毛織物産業さかんに
↓
救貧法……土地を追われた小作人に対して職業訓練
↑
(その財源は富裕者から徴収した救貧税)

- ◆スペインとの対立
女王自ら、**ドレイク**らのスペイン船への海賊行為奨励。オランダ独立を援助。
→ 1588 スペイン _____ を破り、制海権確立
- ◆海外進出……1600 イギリス _____ 設立 (=独占を許可された特権的国策会社)
ポルトガル・オランダと東洋貿易で競争
- ◆文化……劇作家 _____、哲学者 _____ など

<フランス>

- ▶ _____ (1560-74) ……母后 _____ (メディチ家) の摂政
ユグノーに寛容的 → かって国内での宗教対立が深刻に
- ・ 1562 ~ 98 _____ ……諸外国の介入
(旧) スペイン vs (新) ドイツ新教諸侯、イギリス、オランダ
- 1572 _____
王妹と、ユグノー首領ナヴァル王アンリ・ブルボンの政略結婚に際し
パリに集ったユグノーをカトリック側が不意打ちで大虐殺
- 1589 ヴァロワ朝断絶……対ユグノー穏和政策のアンリ3世をカトリック聖職者が暗殺
- ▶ _____ (1589-1610,ナヴァル王アンリが即位)、 _____ 朝 (1589-1792,1814-30)
- 1593 王自身はユグノーからカトリックに改宗 (国家統一の必要から)
- ・ 1598 _____
ユグノーにも個人の信仰の自由を与える。ユグノー戦争終結。
※ただし、パリ市及び宮廷所在地ではプロテスタントの礼拝禁止
※フランスの教会はローマからの独立性を主張=国家教会主義 (ガリカニズム)
- ▶ _____ (1610-43) ……宰相 _____
摂政だった王母 (アンリ4世の第2妃) マリ・ド・メディシスを抑える。
 - ・ 三部会を開催せず (1614 ~ 1789 年大革命まで)
 - ・ 三十年戦争に介入 (1635 新教側に参戦 →後述)
- ※学士院 (アカデミー・フランセーズ) 設立……王権主導による国民文化振興
フランス語の洗練。古典主義文学。 →啓蒙主義時代のヨーロッパの国際語に
- ▶ _____ (1643-1715) ……宰相 _____ (イタリア人)
- 1648 三十年戦争を有利に終結 (アルザス地方の獲得)
- 1648-53 _____ ……貴族・高等法院 (=貴族勢力の牙城) の反乱鎮圧
- 1661 マザラン死後、親政=絶対王政の全盛期へ

<ドイツ三十年戦争>

アウグスブルクの和議以後も、新旧両派の対立
1608 新教徒同盟 (Union) ……プファルツ・ザクセン・ブランデンブルク選帝侯
1609 旧教徒同盟 (Liga) ……ハプスブルク家、バイエルン公 (1623 選帝侯に)

1618 ~ 48 _____ ……ドイツを舞台に最大の宗教戦争

①. 1618-23 ベーメン=プファルツ戦争

1618 プラハ王宮窓外放出事件
フス以来の宗教改革の伝統のあるベーメンのチェコ人民衆が、ハプスブルク家の代官を
王宮の窓から放り出し、プファルツ選帝侯フリードリヒ5世をベーメン王に推戴

しかしプファルツ伯はカルヴァン派のため、ルター派の諸侯もこれを応援せず
カトリック・皇帝側の勝利 (ティリー將軍の活躍)

②. 1625-29 デンマーク戦争

デンマーク (兼ノルウェー) 王クリスチャン4世 (ルター派)、新教側に参戦
↓
皇帝は傭兵隊長 _____ を起用、北ドイツ制覇に成功

③. 1630-35 スウェーデン戦争

スウェーデン王 _____ (グスタフ2世,ルター派)、新教側に参戦
皇帝のバルト海進出を警戒
フランス宰相リシュリューの支援をうけ新教側に参戦

1632 リュッツェンの戦い……スウェーデン軍勝利、しかしグスタフ・アドルフ戦死
1634 ヴァレンシュタイン暗殺

④. 1635-48 スウェーデン=フランス戦争

フランス宰相 _____、ハプスブルク家打倒のため新教側に参戦
(カトリック国だが、国際対立関係を優先)

→戦局逆転し新教側優勢、宗教戦争の枠を越えた世界大戦に

▼終戦

1648 _____ 条約
ヴェストファーレン地方の2都市で史上初の本格的国際会議開催

_____ (旧教)、 _____ (新教、こちらで調印)
Münster Osnabrück

- ・アウグスブルクの和議を確認、新たにカルヴァン派も承認
(いぜんとして個人の信教の自由は認めず)
- ・ドイツの諸侯・都市に完全な主権 (=神聖ローマ帝国の死亡証書)
- ・スイス、オランダの独立が国際的に承認 (=ハプスブルク勢力の後退)
- ・スウェーデン……北ドイツに領地獲得しバルト海制覇 (→バルト帝国)
- ・フランス……アルザスなどライン左岸地方への進出

▼総括

- ・ドイツの後退……1600 万から 1000 万に人口減少 (ペストも流行)
- ・ヨーロッパの主権国家体制の確立……ドイツ、イタリアを除く各国の国境が明確になる。
- ・ブルボン家のハプスブルク家に対する優位確定
- ・「17世紀の危機」の象徴的事件
……バロック哲学のモットー「死を忘れるな (Memento Mori)」
戦争の惨禍を目の当たりにしたグロティウスが「戦争と平和の法」を著す

<クロムウェル執政時代>

1649-50 アイルランド征服（農民から土地没収）、さらにスコットランドへも侵攻

1651 _____ 制定……オランダの中継貿易に打撃を与えるため
英国が輸入するヨーロッパ以外の地域の産物は英国の船で輸送する
英国が輸入するヨーロッパ産物は、英国、産出国、又は最初の積出国の船で輸送

↓
1652-54 第1次 _____ (第2次 1665-67、第3次 1672-74)
→イギリスの世界商業覇権確立

1653 クロムウェル、 _____ (Lord Protector) 就任。議会を開かず軍事独裁

1658 オリヴァー＝クロムウェル死、子のリチャードが護国卿就任
→独裁に対する反発、長老派復活、王党派と妥協

< _____ (1660) >

▶ _____ (1660-85、チャールズ1世の子)
フランスから帰国に際してブレダ宣言を發し、議会もこれを承認
王と議会との和解の上に成り立つ王権になるはずだったが...

議会……ピューリタンから国教徒に改宗し、国王と協調図るが...
↑↓
国王……フランスの影響でカトリックの復活を図り絶対主義

▶ 議会の王権への抵抗

1673 _____ (Test Act) ……官吏・議員は国教徒に限る
1679 _____ (Habeas Corpus Act) ……不当な逮捕・投獄から国民を保護

▶ 王位継承問題と政党の形成

チャールズ2世に嫡子なく、カトリック教徒の弟ジェームズが相続人に
↓ (↑審査法で海軍総司令官解職)

・ _____ 党 (Whigs) ……人身保護法と同時にジェームズの王位継承排斥法案提出
・ _____ 党 (Tories) ……王位継承排斥法案に反対 (上院で否決)、ジェームズ即位を擁護

▶ _____ (1685-88) 即位……カトリック復活、専制政治
第2王妃に王子出生、カトリック王家の存続が決定的になる。

< _____ (1688, Glorious Revolution) >

ウィッグ・トーリー両党協調、第1王妃長女メアリと、夫オランダ総督オラニエ公ウィレムを招請
ウィレム&メアリ夫妻、英に上陸。ジェームズ2世はフランスに亡命 → 無血革命達成

1689.2 議会、 _____ (Declaration of Rights) を議決

_____ (1689-1702)、 _____ (1689-94) ……共同統治者として即位

1689.12 _____ (Bill of Rights) 發布
正式名称「イギリス人民の権利と自由を宣言し並びに王位継承を定める法律」
・13項目にわたる「古来の権利と自由」の確認
・国王は必ず新教徒であること

※ 初め両党連立内閣を組織させたが、後、議会多数党が内閣を組織する政党内閣制へ

※ イングランドとオランダの同君連合状態は、ウィリアムの死後解消

<大英帝国>

▶ _____ (1702-14)
デンマーク王子と結婚、さらに知性も低く政治から遠ざかる

1707 _____ (United Kingdom of Great Britain)
イングランド・スコットランドの正式合体

1714 アン女王急死、嫡子なくステュアート朝断絶

▶ _____ 朝 (1714～現、1917 ウィンザー朝と改称)
_____ (1714-27)

ドイツ・ハノーヴァー選帝侯ゲオルク (55才) が即位。英語を理解せず国情にも疎い。

「国王は君臨すれども統治せず」→二大政党による議会政治確立

_____ 制…… _____ 内閣 (ウィッグ党、1721-42) による

※ブルジョワジー主導の議会政治のもとで、重商主義政策&植民地獲得戦争の遂行

(2) ルイ14世の絶対王政

1661 宰相マザラン死、ルイ14世親政……「朕は国家なり」、太陽王

_____ 説……師 _____
重商主義政策……財務総監 _____、1664 _____ 復興
バロック文化…… _____ 宮殿

※ 1659年 ピレネー条約……ルイ14世、スペイン王女と結婚
持参金をスペインが支払えなかったことが、その後の戦争の引き金に

▼軍備増強し侵略戦争を展開

①. 南ネーデルラント戦争 (1667-68)

スペイン王フェリペ4世死、ルイ14世がスペイン領ネーデルラントの相続権主張
→フランスの進出をおそれるオランダが英・スウェーデンと同盟し調停

②. オランダ侵略戦争 (1672-78)

①の報復でオランダを侵略。孤立するが、ナイメーヘン条約でフランシュ＝コンテ獲得

③. プファルト継承戦争 (1688-97)

皇帝・ドイツ諸侯・オランダ・スペイン等からなるアウグスブルク同盟と戦う

1697 ライスウィク (レイスウエイク) 条約……アルザス全土獲得
北米植民地でイギリスとも戦う (=ウィリアム王戦争→引き分け)

▼ _____ (1701～13) ……ルイ14世の侵略戦争その④

1700 スペイン・ハプスブルク家断絶 → ルイ14世の孫フィリップがスペイン王即位
スペイン・ブルボン家 _____ (~1746)

↓
フランス・スペイン VS オーストリア・オランダ・イギリス・プロイセン
北米植民地でイギリスと戦う……1702-13 アン女王戦争

ルイ14世苦戦するも、1711年、オーストリア・ハプスブルク家のスペイン王候補が
神聖ローマ皇帝に即位 (カール6世) したため、終戦の気運

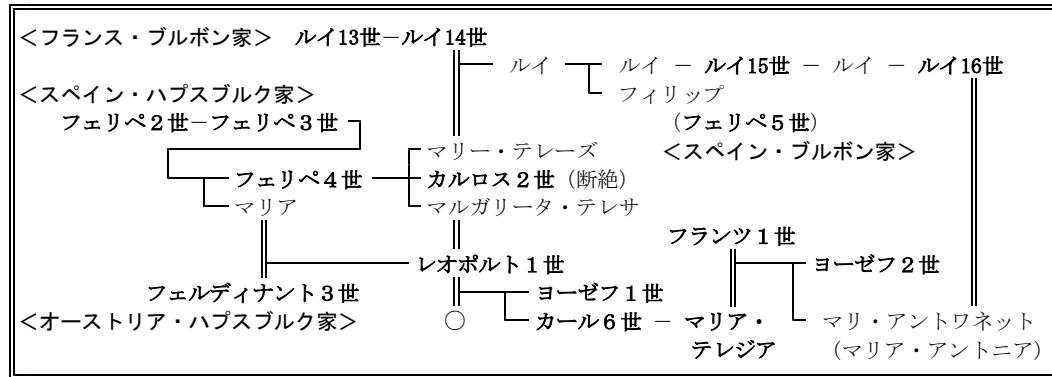
1713 _____
・フランス・スペインが合併しない条件でスペイン＝ブルボン王家承認
・イギリスの獲得領土
スペインから _____、 _____
フランスから _____、 _____、 _____

1714 ラシュタット条約……オーストリアは、スペインから、
南ネーデルラント (現ベルギー)、ミラノ、ナポリを獲得
(これらはハプスブルク家固有の領土でありスペイン王位とは別。
のち、ナポリは、1738年手放され、スペイン・ブルボン家領になる)

▼フランス財政難に……たび重なる戦争、宮廷の浪費 (ヴェルサイユ宮殿)

さらに、1685 _____ 廃止
→ユグノーの商工業者の国外亡命 →産業の発展が停滞

※スペイン継承戦争・オーストリア継承戦争・七年戦争に関わる系図



※遅れて絶対主義化した国では、思想的基盤に啓蒙思想の都合のよい部分を利用
→信教の自由、教育制度、産業育成 etc.

(3) プロイセンとオーストリア

<プロイセン (ホーエンツォレルン家)>

- ▶ フリードリヒ=ヴィルヘルム大選帝侯 (1640-88, der große Kurfürst) ……常備軍編成
- ▶ フリードリヒ1世 (公 1688-, 王 1701-13)
スペイン継承戦争の時、ハプスブルク家皇帝側につき、王国に昇格(1701)
- ▶ _____ (1713-40、軍人王, Soldatenkönig)
軍国主義的絶対王政。領主貴族 (= _____) を将校団・官僚群の中核に
- ▶ _____ (1740-86、大王, Friedrich der Große) ……啓蒙専制君主
“君主は国家第一の下僕”、著書「反マキャヴェリ論」、ヴォルテールと親交 (のち決裂)

<オーストリア (ハプスブルク家)>

- ▶ カール6世 (1711-40) ……男子生まれず
1713 プラグマティッシェ・ザンクツィオン (_____) 発布
「家領を分割せず女子に相続させる」と明記し諸国の承認も得る
- ▶ 1740 オーストリア大公 _____ 即位 (~ 1780、“国母”)
※「女帝」と呼ばれるが、神聖ローマ皇帝には即位せず
ただし彼女自身は「KK = 女帝にして女王 Kaiserin-Königin」と署名
※婿のフランツ1世はロートリングゲン家出身→以後は「ハプスブルク=ロートリングゲン家」

▼ _____ (1740~48)

バイエルン・ザクセン両選帝侯が、マリア・テレジアのハプスブルク家相続を認めず、
同家領の分割を狙い、ブルボン家のフランス・スペインと結ぶ。
皇帝位は一時バイエルン選帝侯に移るが、まもなく夫フランツ1世 (1745-65) が帝位奪回。

プロイセン王フリードリヒ2世、オーストリア領 _____ を占領
↓ (現ポーランド西南部)
マリア・テレジア、イギリスと結び反撃
→北米で英仏植民地戦争 (1744-48、ジョージ王戦争)

1748 アーヘンの和約
プロイセンはシュレジエン地方領有
ジョージ王戦争は引き分け

※マリア=テレジアのまきかえし…「外交革命」=200年来の宿敵フランスと同盟を結ぶ
→ 1774 ルイ16世とマリア=アントワネットの結婚

- ▼ _____ (1756~63)
マリア=テレジア、フランス・ロシアと結びシュレジエン奪回を図る
フリードリヒ2世は、イギリスと結び対抗
→北米で英仏植民地戦争 (=フレンチ・インディアン戦争)
- 1763 フベルトゥスブルク条約…オーストリアのシュレジエン奪回はならず
同年 パリ条約…フレンチ・インディアン戦争はイギリスの決定的勝利 (後述)
- ▶ _____ (1765-90) ……啓蒙専制君主
1781 宗教寛容令…信仰の自由、イエズス会追放、修道院閉鎖
(マリア・テレジアはカトリック主義なので、啓蒙専制君主に入れないようだが..。
しかし、領内全域に義務教育の小学校を設立。各民族の言語で統一の教科書を作成した。)
※複合民族国家として統一の維持に苦勞

(4) ロシア

1670-71 _____ の乱…南ロシアのコサック・農民反乱 →鎮圧

- ▶ _____ (大帝, 1682 ~ 1725)
東…1689 _____ …清の _____ と国境を確定
1728 ベーリング海峡到達 → 1741 アラスカ領有
南…1695-96 オスマン=トルコに苦戦
西…1697-98 西欧視察 (自ら視察団の一随員として、プロイセンで砲術を学び
オランダ・イギリスでは単独行動、造船所で見習い技師として働く)
→帰国後、西欧化・近代化政策、産業振興
- ▼ _____ (1700~21)
スウェーデンに年少の _____ (1697-1718) 即位
→ロシア・ポーランド・デンマークが連合し宣戦
- 1712 ロシア、 _____ に遷都 (1703 建設開始)
→ 1914 ペトログラード→ 1924 レニングラード→ 1991 サンクト=ペテルブルク
- 1721 ニスタット条約
スウェーデン敗北、三十年戦争以来のバルト海覇権をロシアに奪われる
- ▶ _____ (1762 ~ 96) ……ドイツ貴族の娘、啓蒙専制君主
1745 ピョートル3世と結婚, 1762 即位直後の夫をクーデタで殺害し自ら即位
ヴォルテール・ディドロ・ダランベールらと文通、モンテスキュー「法の精神」を礼賛
ペテルブルク冬宮 (_____ 、現・美術館) 造営 (フランス的サロン趣味)
- 1773-75 _____ (=農民反乱) → 鎮圧後、さらに農奴制強化
- 1768-74 第1次ロシア=トルコ戦争 → 1774 キュチュク=カイナルジャ条約
1783 クリム・ハン国併合…セヴァストポリ要塞獲得
1787-92 第2次ロシア=トルコ戦争 → 1792 ヤッシ条約 (ドニエストル川を国境)
- 1792 ラクスマン、根室へ来航 (漂流者・大黒屋光大夫を謁見の上、送り届ける)
- ▼ _____
1772 第1次分割…ロシア、プロイセン、オーストリアによる
1793 第2次分割…ロシア、プロイセンの2国による
フランス革命→マリア=アントワネットの実家オーストリアは分割不参加
⇔ 1794 ポーランドの愛国者 _____ の抵抗運動
リトアニアの貴族、アメリカ独立戦争でワシントンの副官
抵抗運動挫折後は英・米・仏と渡りスイスで死
- 1795 第3次分割、ポーランド消滅…ロシア、プロイセン、オーストリアによる